

安全データシート

(SDS)

製品及び製造者情報

製造者名 一般社団法人日本粉体工業技術協会
住 所 〒600-8176 京都市下京区烏丸通六条上ル北町1 8 1
第5キョートビル7階
担 当 部 署 粉体工業技術センター 製造事業部門
電 話 番 号 075-354-3583 F A X 番 号 075-352-8530
E - m a i l : testpowders@appie.or.jp
連 絡 先 同上

作 成 日 2015年 9月 25日
改 訂 日 2026年 7月 29日

製品名（化学物質名） JIS 試験用粉体1の1種、2種及び3種（けい砂）
SAP 試験用粉体3の1種（けい砂）

危険有害性の要約

[GHS分類]

物理化学的危険性	分類結果
爆発物	該当しない
可燃性ガス	該当しない
エアゾール	該当しない
酸化性ガス	該当しない
高压ガス	該当しない
引火性液体	該当しない
可燃性固体	該当しない
自己反応性化学品	該当しない
自然発火性液体	該当しない
自然発火性固体	該当しない
自己発熱性化学品	該当しない
水反応可燃性化学品	該当しない
酸化性液体	該当しない
酸化性固体	該当しない
有機過酸化物	該当しない
金属腐食性化学品	該当しない

環境に対する有害性	分類結果
水生環境有害性 短期（急性）	分類できない
水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない

健康に対する有害性	分類結果
急性毒性（経口）	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	該当しない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性又は皮膚感作性	分類できない

生殖細胞変異原性	区分 2
発がん性	区分 1 A 第 1 群（日本産業衛生学会）
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 1（呼吸器、免疫系、腎臓）
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分 1（呼吸器、免疫系、腎臓）
誤えん有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語：危険



危険有害性情報：発がんのおそれ、長期にわたる、または、反復ばく露による呼吸器の障害、腎臓の障害
注意書き：【安全対策】

粉じんを発生させないように取扱い、取扱い後には手を洗い、うがいをする。粉じんを吸引、また目や口に入るような状況にある場合は適切な保護具を使用すること。

【応急処置】

気分が悪くなったり、吸引あるいはその懸念がある時には、医師の診断、手当を受けること。

【保管】密閉できる容器に入れ、湿気のない雰囲気中で保管すること。

【廃棄】本品、容器を廃棄する時は、許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

組成、成分情報

単一製品・混合物の区分：単一製品

化学名又は一般名：石英（結晶質二酸化ケイ素）

化学成分：SiO₂（石英）95%以上 CAS No.：14808-60-7

Al₂O₃（酸化アルミニウム）2.66%

CAS No.：1344-28-1

官報公示整理番号：化審法（1）－548

応急措置

- 吸引した場合：直ちに、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息する。気分が悪い場合は医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合：直ちに清浄な水で数分間洗眼する。痛みや違和感が持続する場合は医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合：直ちに多量の水で数分間洗い流し、かぶれや炎症を生じた場合は医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合：直ちに清浄な水で口をすすぎ、気分が悪い時は医師の診断を受ける。

火災時の措置

- 消火剤：本品自体は不燃物である。周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。使ってはならない消火剤：データなし
- 特有の危険有害性：本品の容器は、火災時の高温下で熔融したり、燃える可能性がある。
- 特有の消火方法：危険でなければ、火災地域から容器を移動する。
- 消火を行う者の保護：周辺の火災に応じて適切な保護具（防じんマスク、保護メガネ、保護衣等）を着用する。

漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急処置：漏出対応作業時には、適切な保護具を着用し、漏出物の吸引、眼や皮膚への接触を避ける。

環境に対する注意事項：粉じんの飛散や、粉体の河川への流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：集じん装置で捕集の粉じん、床面の粉じんを集め、密閉できる容器に回収。

取扱い及び保管上の注意

- 取扱い：粉じん障害防止規則、管理濃度、許容濃度に従って、飛散させないように、静かに取扱う。吸い込んだり、眼に入る恐れがあるので必要に応じ保護マスク、保護眼鏡を着用等の対策をとる。
- 保管：ふたのできる密閉容器に入れ、常温常湿の屋内に保管する。

ばく露防止及び保護措置 管理濃度：0.03 mg/m³
許容濃度：吸入性結晶シリカ 0.03 mg/m³
設備対策：粉じんの飛散の可能性がある場所には局所排気を設け、許容濃度以下にする。局所排気は外部へ飛散しないように、集じん設備を設ける。
保護具 呼吸用保護具：適切な防じんマスクを着用する。
保護眼鏡：状況に応じ防じん保護眼鏡を着用する。
保護衣および保護手袋：状況に応じ保護衣および保護手袋を着用する。
衛生対策：取扱い後はよく手を洗い、うがいをする。

物理／化学的性質 外観等：白色、微粉末、無臭 粒子密度：2.6～2.7 g/cm³
融点：1610℃ 融点：2230℃
溶解度：水に不溶 引火点：不燃性

安定性及び反応性 安定性：熱・光・衝撃に安定・引火性、爆発性なし。
反応性：水とは反応しないが強酸化剤やフッ化水素とは反応する。

有害性情報 遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれ
呼吸器系の障害
長期または反復ばく露（吸入）による呼吸器系、腎臓の障害

環境に対する有害性 水生環境有害性 短期（急性）：データがなく、分類できない。
水生環境有害性 長期（慢性）：データがなく、分類できない。

環境影響情報 移動性：微細な粉じんは、空気中に飛散しやすい。
蓄積性：なし
環境影響：局所排気等で外部へ排出すると粉じんによる環境汚染の恐れがある。
その他：なし

廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄においては、飛散防止処置をした上で、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者へ委託して処理する。
汚染容器及び包装：容器は清潔にしてリサイクルするか、連法規並びに地方自治体の基準に従って関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去し、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者へ委託して処理する。

輸送上の注意 運搬に際しては容器等に漏れの無い事を確かめ、転倒、落下、損傷の発生がないように積載し荷崩れの防止を確実に行う。
国連分類：なし 国連番号：なし

摘要法令 労働安全衛生法：労働安全衛生法施行令別表第9（名称等を表示・通知すべき危険有害物。令和7年（2025年）4月1日から労働安全衛生規則別表第2）結晶質シリカ粉じん障害防止規則第2条第3号、別表第1（粉じん作業）労働安全衛生規則第577条の2（がん原生物質）結晶質シリカ
じん肺法：第2条第3号、別表（粉じん作業）
P R T R法：第一種指定化学物質及び第二種化学物質含有 なし
毒劇物取締法：該当物質の含有 なし
内分泌攪乱物質：対象物質の含有 なし

その他

参考文献 ・労働安全衛生法に基づくラベル表示・SDS交付等の義務対象物質一覧（令和7年（2025年）4月1日施行分）（令和8年（2026年）4月1日追加分）
・JIS Z 7252 GHSに基づく化学品の分類方法（2019）
・JIS Z 7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）（2019）

- ・化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂 9 版（2021）
- ・日本産業衛生学会：許容濃度等の勧告（2024 年度 日本産業衛生学会）

【記載事項の取り扱い】

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、必ずしも充分ではないため、取り扱いには充分注意して下さい。また、この SDS は、現在知り得る範囲において誠実に作成しておりますが、これをもってなんら保証するものではありません。ここに記載してある注意事項は通常の手扱いを対象としたものです。特殊な取り扱いの場合は、用途・方法に適した安全対策を講じて下さい。

以上（全4頁）